

World Watching 65



小山 彰

国土交通省
国土技術政策総合研究所
管理調整部長

ワールド・ウォッチング



東北アジアの 国際航運センターを目指す 大連港



はじめに

先日、中国政府交通部、大連市人民政府、中国港湾協会等が主催する「港湾と都市経済の相互作用に関するサミットフォーラム」に参加するため、大連市を訪れる機会を得た。大連では「東北アジア国際航運センター」を目指し、市長自らが同フォーラムにおいて講演を行う等、積極的に港湾整備及び周辺開発を進めている。本稿ではその一端を紹介したい。



大連市と大連港

大連市は、1984年に中国沿岸開放都市の指名を受ける等、早くから経済技術開発区の整備が進められてきた。経済技術開発区は、大連の中心から北東へ30~50km、大窓湾と大孤山半島を取り囲む広大な地区開発（未確認だが約81万km²の広さ）であり、東北部唯一の保税区や輸出加工区など対外開放先導区を有している。大連市は開発の歴史は浅いものの、石油化学や造船、工作機械などの生産は中国一の重要な産業拠点である。

大連港は、遼寧省、吉林省、黒竜江省の3省（面積78.9万km²、人口1億627万人、GDP全国の11.1%（いずれも2001年））を背後圏に有する東北部最大の港湾であり、3省輸出入コンテナ貨物の90%以上を取り扱っている。また、中国で第2位のコンテナ中継港の地位を占め、国内外に68の航路を有し、週300隻以上のコンテナ船

が寄港している。大連港における本格的なコンテナターミナルは、大窓湾に位置しており（第I期、水深12.1~14m、延長1,500m、能力210万TEU）、今年上半期には124万TEUを取扱い、昨年同期比25.9%の伸びを示した。

大連港の管理運営は、2003年4月の改革により港務局（PDA）制度が廃止され、大連港集團有限公司（Dalian Port Corporation Limited）とその傘下30あまりの子会社とともに運営を実質的に行っている。大連港集團有限公司とその子会社は、持株会社と業務の実施会社の関係と推測される。ただ、制度改革の過渡期であることもあり、国の関与の範囲も含めて非常に判りづらい。集団の権限は、プロジェクトによるが、コンテナや石油関連或いは2億元以上のプロジェクトは市を通じ中央政府まで上がるところである。大連市には、湾岸局が設置され、臨海部の管理や開発の許認可権限を有しているとのことである。



東北アジア国際航運センター構想

東北アジア国際航運センター構想は、大連港を核として、港と内陸部との間でさらに多くの資金・情報・物を集積、連携させることにより、東北部を振興させ国際的に競争力のある経済圏に育てることを目的とした開発構想である。このため、今後大連港においては、東北アジアの国際ハブ港湾にすべく2010年までに300億元を投資することにしている。ここでは、そのうち



旅客ターミナル地区の埠頭。旧式のクレーンが林立している。



大窓湾及び大孤山半島の開発計画図

核となるプロジェクトである大窓湾と大孤山半島の開発プロジェクトの概略を紹介する。

大窓湾では既に水深13.5m～17.8mのコンテナバースを6バース整備すべく、コンテナターミナルの第II期整備事業が進められている。この内、2バースは7月8日には運営が開始された。運営に当たるのは、大連港コンテナターミナル会社、PSA中国、COSCO、それにマースクグループの合弁会社である。2008年までに残りの4バースを完成させることとしており、取扱能力は2.8百万TEUとなる。さらに、取扱能力3.2百万TEUの第III期計画も予定されており、2010年までに1,000万TEUのコンテナを取り扱うことを目論んでいる。

この第II期コンテナターミナルの背後には、大連保税物流園区が設けられている。これは、保税区と港湾を一体化させ、輸出貨物に対しても区域内では関税制度上「国外」と見なされるのが大きな特徴であり、蔵置税の還付に係る期

間が短縮できるほか、国内での貨物の保税輸送が可能になるなどのメリットを持つ新しい制度である。当園区は、上海の外高橋に次ぐものとして昨年8月に国務院より認定され、全体計画7.6km²のうち1.5km²の規模で運用を開始した。

一方、コンテナターミナル以外の整備も進められている。大窓湾奥部においては、日本郵船、COSCOとの合弁により自動車専用ROROターミナルを2006年春に運用開始する予定である。5万DWT級の船舶を同時に2隻着岸可能であり、年間78万台の処理能力を持つ施設である。大孤山半島では、30万DWT級の鉱石船接岸施設が昨年6月に完成し、東北内陸部の需要を賄うため鉄鉱石の輸入が開始され、既に1年間で800万トンの実績となっている。最終的には、取扱能力2,000万トン、貯蔵能力600万トンの施設整備を行う予定である。また、石油製品や液化化学製品の国際的な中継基地となるための30万DWT級の原油バースを始めとした整備も着々と進められている。さらに、穀物の中継輸送、貯蔵等の機能を有する食料基地も取扱能力500万トン規模で整備されており、穀物市場の情報提供など最新のITを駆使した運営が行われている。

最後に

以上の通り大連港におけるプロジェクトはどれもこれも驚嘆に値する規模であるが、背後圏人口が我が国に近いという事実からすれば、「計画貨物量を日本流に需要予測しても同程度になるかも」と変に納得してしまう。大連市長の自信に満ちた講演を聴き、現場を見て関係者から話を聞くに及び、これらのプロジェクトは確実に実現されるという強い思いを抱くと共に、中国における成長へのエネルギーを強く感じた。